

オートメーション化とその政治的表現

主として社会党
との関係について

小川正夫

オートメーション化については、同誌福田君が優れたスケッチを本誌三号に発表している。編者はこの重要性について、細心の注意を払って、鋭い筆で「高い生産スピードと低いコスト」をオートメーション化によって達成することである。これについて五月九日の「朝日」は「英国にオートメーションの設備」と題するロンドン通信をのせたが、以下にその概略を述べると、この通信は御多聞にも、オートメーション化が近き将来、現実の政治にどのような影響を及ぼすかという重要な問題にはあらず、又、今、英国に起きている労働争議の

事がない場合、五日目は失業手当がもらえる。これは結局、形を変えた政府の労働補助金であり、これが先例となることは、英国産業界全体のオートメーション化の将来に与えるものという労働評論家や政治経済評論家などから批判があつた。又、英国保守党政府が「朝日」に「オートメーション化」といふべき大調査資料を提出し、その資料の目的は、英国経済の生存一つにかつて全産業のオートメーション化を促進するにある等々の諸事案を報告している。

「朝日」の報告の概要は右の如くであるが、その中で特に重要なことは、このストが従来の単なる賃上げ闘争とは異なる点にあり、それは、遂に組合は四月二十六日全英ストに入つた、事態は下請工場、人員整理や、英国自動車産業従業員二十万人の「各週一シリン」のスト資金カンパの決議や、合同機械製造の「工場のオートメーション」には必ず組合の同意を得ること」など重要な大会決議によるスト重要性が現はれている。又このストに要するとして突進した短時間交代制は、現在英国の制度では週五日労働の週四日しか仕事合いから生じて来る問題である。

英国社会党が政権をとつた当時、現在の保守党政府が継承している「完全雇用」のローガン及び英国の法律になつて五、六日の労働日、失業手当に付して、このストに現はれた短時間交代制で全従業員維持」という要求と、前述の「白書」に現はれたオートメーション化の促進とからみ合ひから生じて来る問題である。

程を経て完成するだろうが、年毎に改良主義者の頭脳の種類となるだろう、何故なら社会党がオートメーション化に絶対反対しない限り、傘下組合員の大衆闘争を抑制するとは不可能であるから、かくて、英国社会党が政権を取つた当時、法成化して英国労働者の人気を失つた一切の法律が次々次々にガラクタ同様に成り下つて行く時、英国の労働者や労組も、又、現在のそれとは全く異つた質的な変化を引き起こすことは必然である。

詩 旗は青葉の風に吹かれ

植村 誦

ほつと思ふす叫ぶ
大旗を掲げたまづ赤旗の波
旗はけし風になびくがえり
旗の下に集まつた数千人
なほ後から後からと集つて来る人々
自分でも気づかなかつた集団の
勢と威力に
先づ叫びをあげ
目をかがやかせ
やがてそのわき立つ美の中に消えて行く
五月の日は晴れ
風はけし
風に抗して飛ぶヘリコプターや飛行機から
吹雪のように舞いおちるドラ
ビラには何が書かれていたか
林立するプラカード
プラカードには何が書かれていたか
基地撤廃
原爆実験やめよ
再軍備反対
子供を守れ
社会保障制度の確立
憲法改悪反対
反動教育を粉砕しろ
平和を守れ
それから、それから……
今動くものの上のしかかる
国の内外からの
不正と非人間的な陰謀の数々への
怒りと抗議！
必死の願ひ

今日一九五六年五月一日
日本の百三十の会場で
百五十万人が集つてメーデーが行われ
一件の事故もなかつた
政府も組合幹部も驚つて
政府や資本家は何をよこしたのか
組合幹部は何を語つたのか
メーデーの歴史や趣意はどへ行つたのか
メーデーは労働者の祝祭日
たのしく、なごやかに
政府も組合幹部も宣伝する
北京や、モスクワはそうであつた
しかし日本でもさうであつたか
この暗い切実なる願ひはどうなるのだ
友よ
われらの祝祭の日を迎えるために
腕を組み、肩を組んで
前進しよう！
われらは、われらの秩序をもつて
時には歌高く威風堂々と
時にはマツとなつてジグザグに
われらのねがいのために
大きな流れとなつて

労働者を大土不事などに振り換へ
て、大量失業状態を切り抜け得る
とつては、だが、天に梯子
子をかける仕事でも発明しない限り
、無限に続く大土不事などは
この世にあり得ないことを知るに
至るだろう。かくて絶対主義者が
客観的に強制されるこのような配
置転換は全然無意味となる、それ
ばかりでなく彼らにとつて更に
悲しいことはワード・コックも述べ
ている如く、大工場組織の中へ労働
者をつめ込んで、大工場組織を
そのものに内在する本質的な意図
を、その大工場組織の中では詮す
る望みもなかつた希望と覚悟と
発意がその大土不事から実行され
るのだから、その結果、彼らの中に
吾々の思い通りでないであろう。

吾々はオートメーション化に
比例して、労働者諸君が社会党及
びその傘下にある改良主義的な組
合の集積的傾向に批判的になり、
それぞれ自己の内部にある妥協的
な精神的きつと必然的に対決し
なければならぬようになると考
える、その結果、彼らの中にアナ
キスチックな傾向が復活すると断
定すると考へるのは、あながちに
吾々の思い通りでないであろう。

労働者大土不事などに振り換へ
て、大量失業状態を切り抜け得る
とつては、だが、天に梯子
子をかける仕事でも発明しない限り
、無限に続く大土不事などは
この世にあり得ないことを知るに
至るだろう。かくて絶対主義者が
客観的に強制されるこのような配
置転換は全然無意味となる、それ
ばかりでなく彼らにとつて更に
悲しいことはワード・コックも述べ
ている如く、大工場組織の中へ労働
者をつめ込んで、大工場組織を
そのものに内在する本質的な意図
を、その大工場組織の中では詮す
る望みもなかつた希望と覚悟と
発意がその大土不事から実行され
るのだから、その結果、彼らの中に
吾々の思い通りでないであろう。

「土地は農民に」、「工場は労働
者に」の革命のスローガンは政府
や国家の外に着々と、その実
現の進行を開始していったのだ
そこにはなんら革命政府樹立の必
要も、独裁的国家権力樹立の必
要も見いだされなかつた。過渡期
について語らうとするや否や、一
旦形成された国家は絶対に死滅

る。一つ一つ切り離して考えれば
がら、改進黨の頭脳の種類となる
だろう、何故なら社会党がオー
トメーション化に絶対反対しない
限り、傘下組合員の大衆闘争を
抑制するとは不可能であるから
、かくて、英国社会党が政権を
取つた当時、法成化して英国労働
者の人気を失つた一切の法律が
次々次々にガラクタ同様に成り
下つて行く時、英国の労働者や
労組も、又、現在のそれとは全く
異つた質的な変化を引き起こす
ことは必然である。

かかる法文のガラクタ化と正比
例して、大都市の大工場でも
例して、心身共に疲弊し、創意
も発意も枯れつくし、唯だ、社会
党の労働者の中で、改良主義的な
スローガンを唱へるに、全く
あなたたまたまの御都合主義的身振
りをたたくにやつておれば、時に
は果敢と大義に立つては出る見
みもあり、労働者でありながら
ブルジョア的な生活も出来た英国労働
者にとつて、このオートメーシ
ョンの徹底は自分の家に火がね
いた以上、彼らを仰天せしめね
ばならぬ、遂には、彼らは中央
集権化した組合や党それ自身がな
任せて生活の保証を求めるのは、
今も昔も大衆の気持ちであ
るといふ反対は、一応もつともや
うだ。だが、よく考えて見ればこ
の反対には根拠のないことが判明
する。

何故なら第一に資本主義者が
如何にオートメーション徹底化の
将来は光輝サン然たるものがある
とトクを並べて見ても、資本主
義機構を破壊せずして、それが可
能であるとは誰も信じてないであ
らう、第二にマルクスの絶対対
主義の場合には以下の如くである
から……。

われわれはなぜ どんな国家をも否定するか

久保 護

た。けれども国家は闘争において
革命において、敵を暴力的に抑圧
するために用いられる一時的制度
者である。第一インスタンシ
ヨナルにおいてバクウニ派とマ
ルクス派とが国家を中心に絶えず
討論が交されてきた。無政府主義
の非暴力主義的理論はいかなる型
態の国家の樹立をも認めなかつた
マルクス主義の権力主義者は国家
権力の奪取による政治革命を主
張した。かれはマルクス主義者達
といふも国家が一階級の他階級
に対する支配を維持するための機
関であることを認めてゐる。「わ
れわれは目標としての国家廃止の
問題については、けつして無政府
主義者と食ひちがつてゐるの
ない。しかし革命的な過渡期の
国家は必要である。無政府主義者
はこの過渡期の国家すらも認めな
い、とレーニンはいつてゐる。エ
ンゲルスも無政府主義者の攻撃に
こたへて「われわれは、高度な
国家型であるマルクスが一八七
一年のバ、要も見いだされなかつた。過渡期
について語らうとするや否や、一
旦形成された国家は絶対に死滅

た。レーニンが一九一七年四月
シエに帰つてきた當時はすでに
すべての権力はソウエツトに」
なを意味するものであつたか、
暴力をもつて抑圧する必要がある
者に」の革命のスローガンは政府
や国家の外に着々と、その実
現の進行を開始していったのだ
そこにはなんら革命政府樹立の必
要も、独裁的国家権力樹立の必
要も見いだされなかつた。過渡期
について語らうとするや否や、一
旦形成された国家は絶対に死滅

た。全体主義的国家資本主義とい
う新しい型態が生れた国家が唯
だありうるものと考へられる。
ある特定の政党に国家権力を握
るやうなことがあつたら、革命
はそれで死んでしまふのだ。した
がつて、われわれは社会革命達成
のためにどんな型態の国家をも
存在せしめてはならないといふ
のである。

家権力と対決し、直接行動によつてこれを打倒しようとしている。でバクーニン、クロボトキンの統を受けついでいるが、その行の主体をサンジカ（併働組合、民組合、協同組合をふくむの織に求め、斗争の方法としてボコツト、サボタージュ、ストライキなどを用いている点で、バクーニン、クロボトキン路線よりい

術を用意しているといえよう。

社会革命実現のための決定的な武器とアルコ、サンジカリズムがみなすゼネラル・ストライキの思想は、フランスを中心にして発達したサンジカリズムから生れたものだがソロー、トルストイをへてガンジーによつて大成された無抵抗主義と結びついて、こんどの解放運動の主軸となりそうである。

さらに、アナルコ・サンジカリ
アメリカの I・W・W (世界産業

ツカー、ロシアのマキシモフ、ウ
オーリン、イタリヤのカミエーロ・
ベルネリ、フランスのガストン・
ルヴァル、日本の大杉栄などは、
際的に知られたアナルコ・サンジ
カリストである。

それは、即ち運動に於ける動的な
遊戲的なものでなく、具體的
な機能的なものであると説くリバ
ータリアン思想家が多い。この美
と自由の問題は、おそろしくリバ
ータリアン哲学の中核をなすもの
なのである。

しくは法則性と民衆のうちに宿つ
ているアナキスチックな性向によ
れ、近代から現代におよぶアナキ
ズムの流れをこゝ概観的に語つて
きた。概観につきものの説明の不
足、過度の抽象はやむをえなかつ

「それで、どうかしらん。それとも一
そのこと投票するような顔をして
お金だけもらつて白紙に入れた
らんものだろう。こんなこと
を考へて、少ない寝る時間を一そ

三ノ木、たのにな須賀牛乳は、杉野耕三（二巻二書）のさいに二十万ドルだ。イブ・ン・サウドの長男の現国主は同胞のフエイカルと仲が悪く、それを押えるため大官共に樺給を増額してやつて味方につけた。砂漠にいる重慶を手なづておくところ二十

労働天国

ア
ちなり
者のつ
もの。

ちや二十世紀初めのサンジ
旧式なりベラリズムよのさらに急

大沢正道

かなり多いが、そのなかでよく知られている思想家をあければ、イギリスのラッセル、ハーバート・リード、フランスのジード、カミュ、ル・コルビュジエ、アメリカ

を語っているが、それらを相互に結びつけ、関連づけるシステムに

私には今の選挙法が改正されて小選挙区制になつたら、お金などくれるような人はなさそうだ。何時の選挙のときにも、お金をもつたり、お酒を呑んだり、悪い

王族三百廿二人は宮廷費、自動車、旅費のほか各一人が三万二千ドルとつてゐる。十大臣評議會の中で要職にある四人の親王は年に三十二万ドルと皇族

身近な例では郵便局や税務署、職安の窓口がそれだ。窓口にはいつも人民がひしめき、職員は忙しくてついげんごになる。

倦りたいほど忙しな職場もある

これを打倒しようとしている
術を用意しているといえよう。

いは現在のよ
うな形に形成
され

それゆえ、ここではリバータリ
ンが交旬なく一致している諸点
デューイ、サンタヤーナ、チャツ
プリン、ドイツではヘッセル、ス
ほしい。そう考えて、ほんのあら
ましを、できるだけ公平に、総括

ように十七時間も十八時間も働き
続けて居る人間ではない。憲法が
規定して同様にしなければならないのは、私の
私利私欲のためである。
をとしてゐる。これは「石浜と
中東権力者」の著書Bシユウワ
ドランの開べた数字である。作
義が人事の交流を妨げ、職場の
適正配置を妨げている。最大の

革命の貴重な体験がおりに、これらの表現であつたように、リバータリアニズムはアナルコ・サジニカリズムを内側から支え、その真理であることを論証する哲学といえよう。逆にいえば、リバータリアニズムの政治的、経済的、社会的な表現が、アナルコ・サジニカリズムなのである。

つは個人の自由はどのような理
由によつても制限してはならない
のであること、また個人の自由
全体の福祉はそれぞれ矛盾する
のではなくて、むしろ車の両輪
よつて、それなしにはいずれも
り立ちえないものであること、
それは自身一つのまじまつた
愛のこころがまじりあつた。

さらにアナキズムをふかく知ろ
うとする人々は、以下の教章をも読
んでいただきたい。そこでほかは
アナキズムの歴史と現代のアナキ
ズムがめざしているもの、そのため
の闘い手段、現代におけるアナ
キズムの意義などについて語るつ

には關係ない。ほんとうに關係があるのなら何故もつと皆んなの人が私、たちの様な苦しい思いで働かねばならない農婦を、少しは、よくしてやろうと考えないのだろうか。私は思う、御金などなくとも楽しい生活の出来る世の中に

年中にキヤデラ巨動車二百五十台を賣い込み、王族と高官は二十四の豪華な大宮殿を建てたが、病院も少なく国士はひあがつている。

この時代さくこの状態は近代文明の汚点であり、封建的獨裁

高い税金を取られて、かれらを養っているわれわれ人民だ。じやんじやん文句をいつて、われわれの斥力で役人根性を叩きなますよのほかには手はあるまい。絶対多数の自民党さえ、指一本ふれられない有様だから。

アナキズム研究会
とき…毎月、第一、第三
金曜日午後七時半より
ところ…当発行所
~~~~~  
一般の多数参加を歓迎します

（二面よりつづく）

たりして、炭住を出て行つてしまふ。そうすると他の者が又立候補する。次から次に候補者は絶えやせんたい。石川五工門じやねえがまるでドロボーと同じだ。』

と、いつもいそがしうにしていゝ、めつたにしやべりもしない男がぶつきらほうに言つた。ひげのこい風来の上らない中年の男であつた。篠田は彼の言葉を聞くと千代がびつくりする程、げらげら笑つた。一目おいた追従笑いだつた千代はその男を、虫のすかないこわい奴と思ひ、篠田が何で笑うのかわからなかつた。

選挙の後は、メーデー。

選挙の折、男の人達にまじつた何かと采配をうつてゐた、放婦の幹部が、今度は一軒一軒メーデーに参加するようすゝめに來た。当日定時刻に集合場所に行くとも百円の目当と中食のパンをくれろ。この時も篠田は甲斐々々しく女働いてゐた。

歌をうたつての行進が、千代には楽しかつた。何かワァーツと、胸の中にうつせきしてゐるものをきき出し、空にとび上る気持ちがつた。

『原さんは全くすきたなあ。勉強すればきつと大物になるよ』と篠田がひやかす程、はしやいでに

た。

モ 中東の野蛮国

メ サウジ・アラビア

サウジ・アラビアの人民は今でも中世紀のような生活をしているのに、王族は千一夜物語にあるような宮殿をいくつも持っている。住民の平均寿命は卅三才、肺結核で死ぬ者が多く、七割は結膜炎にかかっている。梅毒患者が四割いる。五十万の人口がまだその王国で奴隸状態にある。宮廷費が年額三千万ドルなのに公衆衛生費は一千万ドルだ。イン・サウドの長男の現国王は同胞のフエイカルと仲が悪く、それを押えるため大官共に棒給を増額してやつて味方につけた。砂漠にいる種族を手なづけておくため五千万ドルも出している。

王族三百廿二人は宮廷費、自動車、旅費のほかに各一人が三万二千ドルとついている。十大臣評議會の中で要職にある四人の親王は年に三十二万ドルと経費をとつている。これは「石油と中東権力者」の著者Bシユウアドランの調べた数字である。昨年中にキヤデラク自動車二百五十台を買い込み、王族と高官は二十四の豪華な大宮殿を建てたが、病院も少なく国王はひあがつている。

この時代さへこの状態は近代文明の汚点であり、封建的組織



# 文字の變遷

近藤 憲 二

して見せてくれた。

元侯爵徳川義親氏が学習院へ入ったところから、もとより常用漢字などときどきあるが、氏は自分の名を書くのに、徳川の「徳」を、四の下の二のある旧漢字を書かず、いつも「一」をばあいて「徳川」と書いた。先生が注意すると、私のうちの徳川はこう書くのだと答えたという。だとすると、尾州徳川は本家徳川に遠慮して、一画つめた「徳」をつかったのだであろう。

これは、唐の玄宗のとき唐王で名に「玄」のつくものは、その字をはばかつて、「一」のうえの「一」を「玄」とつづけて書き、曲を「画」へらした故事になつてゐると思ふ。

戦の翌年であつたと思ふが、この「徳川」の話をしている、読者新聞社の友人が書いていて「略字を使うようになってから、うちの新報も一の徳になつてゐるよ、それ、このとおり」と、新聞から「徳」の字を探し出して見せてくれた。

「人工頭脳」つまり電子計算機のことにはしばしばで、紹介されてゐる。

## 「人工頭脳」

### 科学よみもの ④

「人工頭脳」つまり電子計算機のことにはしばしばで、紹介されてゐる。これは一九五四年のはじめに発行されたロバート・ユングの「明日はもつと始つてゐる」に書いてある、アメリカでの「人工頭脳」使用の有様を書いてみよ。

それによると、空軍の援助をうけてつくられたある団体では、作戦計画の問題を主としてこの「人工頭脳」をもちいてゐるが、それは経済学者、社会学者、心理学者、技術者など三百人分の科学者の仕事をすること。また、おなじ業者によれば、なかつたのである。

いじな老人でないかぎり、いまではみなそう書いてゐる。

ついでに、いわゆる左翼の連中が多用した「芸術」「斗争」などの略字も、いまでは常用漢字になつたり、そうでなくも一般に用いられてゐる。

複雑な漢字ほどありがたかつた時代はともかく、今日では、老人や守旧派の人たちがどんなにきつても、文字はだんだん簡略な方向へ移つてゐる。台、刃、関、井などの略字は、タイヘンカンベで都合いいのだ。

## 近代学校の創立者 フランススコ・フェレル

久保 謙

スペインにおける近代学校の創立者で、その抱く自由思想と無神論のために王制とカトリックの犠牲となつたフランススコ・フェレルのことは日本でもアナキストらによつて紹介されたことがあるが、その後三千年近くになる今日、ほとんど忘れられてゐるに思ふので、かれのことを知らない人達のために、かれの伝記を書いてみることにした。

フランススコ・フェレルはバルセロナに近いアレラという村で、セロナに近いアレラという村で、可成り富裕な家庭に生れた。家は王政主義者であり、カトリックであつて、十一人兄弟の末子として一八五九年一月十日に孤児の聲をあげた。兄弟が多勢なので食事のときは料理が大きな皿に盛られてテーブルの上におかれるので、各々われ勝ちにフォークで突きさしてゐたため、良いも悪いもよくて宗教的教訓をうけ、コミュニケーション

れはならぬのであるが、同時に「世界をひとつに」の立場から、国際語の運動をもつと強く進めていく必要がある。交通機関の発達につれて地球は縮小されつつあり、それがまたますます交通を頻繁にしているのであるが、民族融和、世界平和のために、国際語の廃止とともに、国際語の運動を進めなければならぬのである。

## 日本

内田豊清

- 飛行機が島になる。島が又飛行機になる。(ぬか喜びだつた) 村々の野を騒がせキリのよくに突き立つて行く。
- 軍人が歩いてゐる。道が手招いてゐる。軍人が歩いて行く。道が裸になつて行く。並木が萎縮してゐる。
- 海を渡つて来た風が火を押しつけてゐる。火の足跡で役人が燃つてゐる。意のままになる火の流れ。水もやけてゐる。
- 港を出たり入つたりしてゐる。自由な軍靴とカービン銃。自動車と爪の赤い御婦人。僕らの足だけが釘づけになつてゐる。
- 航空灯が黄色い光を出す。飛行機が降りてくる。電波が車輪を引つづける。彼女のために土下座してゐる滑走路。
- 電気がついてゐるキヤンフ。電気が消えてゐる民家。新聞が逆さにさられてゆく。
- 虎が沙漠を走つてゐる。シールが大刀をさしてゐる。切り捨て御免だ。
- 車にストップを命ずる。鼻の高い紳士が前方にある頭をなぐりつける。そして闇に消える。後で発熱するのは運転手である。
- 堤防に終焉が打上つてゐる。犬が牙をむいてゐる。吠えてゐる。(その鎖を売るな)
- 鉄柵の中へ羊が口をさしこもうとする。囚人が札束を横へては札束を喰ひつゝゐる。浮浪者が絶望の目を上げてゐる。
- 星のある旗が上つて行く。(夜のしるしだ) 首相が立つてゐる。軍帽をつけてシッケイしている。あたり一面に灰色の夜が来ている。

## 世界奇聞、珍談

人間が来た。太陽は三千年前から燃え続け地球に落ちる一秒に同数の新に生れて新陳代謝する血液の中では一年間に三億、四億の赤血球が交換する。各器官は更新するが細胞は病気の間に減少するが回復しない。

人工頭脳(サイバネティクス)は十七億個の真空管又は同様の作用するトランジスターを使えば人間の脳細胞数に近くなり独創力を現わすかも知れないが、現在の数千万個では教えた範囲内の計算等の答えを迅速に出す程度である。

英語でマイクから喋るドイツ語に反してタイプライターに打つ機械を工夫してゐるロンドンのA・フリス博士はあと十年大抵満足に成る見込みだ。

一七五八枚の天体望遠鏡写真をカリフォルニアのパロマ山天文台で撮つて天体図を作る。一部が二千万ドルか、一九五七年に完成するまで膨張して地球はそのガスの中に巻き込まれて蒸発して滅びる(G・ガモフの予想説)

こゝまでわかつたら人間は骨折つて自ら原子兵器を作つて総自殺をなす場合ではない、万人共オルク伯領に集まる。

日本アナキスト連盟発行

全国の労働者必読の書

植村 諦 著

### 労働者諸君に訴う

一部 二十円  
十部以上二割引

クロハタ発行所取扱

毒蛇がデキサスのゴメスという青年を喰んだ。蛇はすぐ死んだがその男は平気だつた。彼は青酸加里で動らく間に組織の中にそんな魔力をもつた。

めくらさんにも普通の本が読める様に「イノスコフ」という万年ペン型の懐中電燈で字を照らすと光電管で受話機に音を生じ文字を聞き分ける工夫がアメリカ放送局で実験中。

英国セフィールド市の制鋼地帯は一キロ平方に一個日に降る塵は二万五千グラムに上り、酸化作用を起し石灰石まで腐蝕する。先日おふんかした中米二カララのマサチウ火山は毒ガスを噴出するので近く火口にマスクをかぶせてガスを導き出し化利用する計画。

前号のこの欄で紙代松の訴えをしたら、二三の人は早速応じてくれた。また二三の人は確約の通信をくれた。何分おねがいします。

次号第七号は死刑廃止特輯号とします。広範に意見を寄せていただきたい。なお一面予告の通り、七月二日は無政府主義の父といわれているバクスターの八十回忌に当る。それでバクスター追憶号として特輯したい。それでその思想、行動、伝記、エピソード、特にバクスターと現代無政府主義についての執筆を御願したい。

九州は、はや梅雨と思しきしとしと雨が毎日つづいた。今日日曜は久しぶりにお天気で、気持ちいい。大抵二十八日の予定のものが今夜出来てしまった。五、二七、

発行所 クロハタ編輯局  
福岡市西新町一丁目  
二六番地  
電話福岡四四八四一  
編輯兼発行人 副島辰巳  
定価 一部 二〇円